

教育と研究を両輪とする高等教育の在り方について
「審議まとめ（素案）」におけるメッセージ（ポイント案）

（ポイント 1：教育研究機能の高度化を促進）

- 新しい時代の大学マネジメントシステムを支える大学構成員（プレーヤー）の新たな役割の再定義。
- 大学構成員一人ひとりが輝き、チームとして役割の連携・融合を図ることで教育研究機能を最大限に高度化。
- 大学におけるダイバーシティマネジメントや、教員組織のダイバーシティを実現。

（施策例）

教育研究を担い支えるプレーヤー（教員、事務職員、技術職員、URA、TA・RA等）の位置付けや役割を明確化し、その職能開発・高度化を図る。

- ・ ティーチングプロフェッサー、リサーチプロフェッサーの仕組み
- ・ 大学教員の採用・評価の実質化
- ・ 事務職員の名称（例：大学運営職員など）の再定義
- ・ 技術職員、URA の役割の明確化
- ・ TA・RA の位置付けと役割の明確化に伴う処遇改善
- ・ 各プレーヤーの職能開発・高度化に資する育成プロセスの構築
- ・ 大学における組織マネジメントの確立・推進 等

（ポイント 2：ニューノーマルにおける大学の姿）

- コロナ禍における大学教育の経験を契機として大学が生まれ変わるチャンス。
- 教員の役割、職員の役割、TA の役割、そして学生の役割においても新しい知見が得られ、対面授業の高度化を含めた新しい大学の姿へ転換。

（施策例）

- ・ オンライン授業と対面授業のハイブリッド型による新しい教育方法の確立・定着に向けた支援
- ・ 「教学マネジメント指針」の積極的な活用を推進
- ・ 学修者本位の教育を加速させるため、例えば、学生を大学構成員の一員と見なした学生参加型の FD の導入・定着
- ・ 学生の授業時間以外の学習時間が格段に増加し、国際的に遜色ない密度の濃い学修を実現（チームティーチング、授業科目の統合、学生の同時履修科目数の絞り込み、授業科目の週複数回実施の取組など） 等